

日本で『法句経（ほっくきょう）』という名前で知られる経典は『ダンマパダ』  
といい、お釈迦さまが残した言葉の中で最も古い時代に成立したお経の一つです。

「ダンマ」は「法」または「真理」という意味で、「パダ」は「言葉」ですので、  
『真理のことば』という訳でも知られています。

全部で二十六章に分類され、四百二十三の格言がおさめられています。

その最初の言葉は、次のようなものです。

「ものごとは心にもとづき、心を主とし、心によってつくり出される。

もしも汚れた心で話したり行ったりするならば、苦しみはその人につき従う。

車をひく牛の足跡に車輪がついて行くように」

すべては心によって生み出され、我々の苦しみも、汚れた心、「煩惱」によって生  
じるというのです。

また日本において広く知られているのが、五番目の次の言葉ではないでしょうか。

「実にこの世においては、怨みに報いるに怨みを以てしたならば、

ついに怨みの息むことが無い。怨みをすててこそ息む。

これは永遠の真理である」

終戦後の昭和二十六年、サンフランシスコ講和条約調印の際に、代表的な仏教国  
の一つである当時のセイロン、現在のスリランカ代表のジャヤワルダナ氏がこの  
一節を引用して、賠償請求を放棄する旨の演説をしました。仏教的な「恩讐を越  
える」といったことでしょうか。

最初の言葉では苦しみの原因となる心を示していましたが、ここでは怨みの心を  
コントロールすることを説いています。しかし、このコントロールすることは簡単  
では無いですね。わかってはいるけれども難しいことです。

この二つの句からもわかるように、短い言葉の中に記されていることは、まさに  
「真理」です。ただ頭で理解するだけで無く、この「真理」を実践することが私た  
ちに求められています。

『ダンマパダ』つまり『法句経』は、今日においても、主に東南アジアの上座部  
仏教の国では信者さんへの説法の際に多く用いられているそうです。

彼の地の皆さんと同じように、お釈迦さまの言葉を味わい、いかしてみたいか  
がでしょうか。